

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
2012年度 JASSO ショートビジット派遣報告書

報告者氏名 下家 大典

23 年度 (入学・編入)

1. 研究課題:

マダガスカルの乗合自動車タクシー・ブルースの運行組織に関する人類学的研究

2. 渡航先: マダガスカル共和国

現地滞在期間: 平成 24 年 7 月 5 日 ~ 24 年 9 月 27 日 (85 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

派遣先研究機関では、高等教育・科学調査省の主催する成果発表会に参加できた。そこでは社会学・文化人類学ともに交通に関する研究は極めて乏しく発展の余地があると確認した。現地調査では、住み込み生活をしながらの聞き取り調査及び参与観察を通じ、運転手、窓口係、荷物係らは運行会社の本部との関わりが希薄な反面、当事者間で原則を定め、自主的に活動していることが明らかになった。乗客獲得のため競合間で争う姿が確認できたが、一方で目的地へ行きたいという乗客を確実に輸送するため協調する事例も確認できた。首都での聞き取り調査では、運行会社本部を訪ね、組織の概要や歴史が明らかになった。自動車の輸入業者からは、新車ではなくヨーロッパなどの中古車が個人的に輸入販売されていると明らかになった。文献調査では運輸省陸運局を訪れ、マダガスカル全体の陸上交通についての資料を得た。国立図書館および国立公文書館で入手した植民地時代の公共交通事情についての文献から、1910年頃から道路網が整備され始めたことが乗合自動車の登場と関わりがあると分かった。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や長期的な展望について述べてください

今回の派遣では、最後にアンタナナリボ大学文明研究所/考古学・人類学博物館にて今回の調査の報告発表を行う予定であったが、体調不良および時間的制約から叶わなかった。今後、機会があれば現地で研究発表を行い、調査国へ成果の還元を行いたい。今回の派遣を通して学んだことは、調査対象についての新たな知見を得たことにとどまらず、現地の習俗を尊重しながら調査を進めていくことの重要性、現地社会における日本の立ち位置や日本に求められていることにまで及んだ。また、自己管理能力および環境適応能力を鍛錬する機会ともなった。派遣者は博士予備論文執筆後に民間企業に就職することとなっているが、今回の派遣で学んだ上記のことを踏まえ、そして最大限に生かして、国外での事業活動に積極的に関わっていきたいと考えている。

5. 本プログラムに参加した感想や、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいか、希望をお聞かせください

本プログラムでは、派遣対象国が多く設定されていることや予算を柔軟に利用することができた点で、自身のテーマに沿って効率よく利用できたことが有り難かった。しかし、渡航先により物価水準や渡航費が大きく異なるため、調査を行うにあたり十分な予算であったとは言い難い。支給額の設定を工夫し、期間と渡航先により差をつけるなどすることを提案したい。期間についても、短期派遣も確保しつつ、より長期での渡航が可能となるような制度が充実すれば、双方を組み合わせ大きな成果を挙げられるのではないかと思う。

*1ページを超えないようにしてください。

* **プリントアウトして、署名を記入の上、提出してください。**

署名